

「これは……ドーナツ屋？」

「ええ。アリバイもないくせに、このセリフを延々と繰り返すだけなのでほとほと困ってますよ」

「私じゃないです。その日、店長に確かめてしついでに、一発で○…をばらして、証拠を隠すために、店番をしていました。」

「最後は中古レコード屋の店員です。一応、店番をしていたかどうかは店長にウラをとってあります。どうです？ 彼らの声を聴いて、何か手がかりになるようなものはありましたか？」

「ふうむ……」私は少しだけ目を閉じると言った。「犯人が分かりましたよ」

「えっ、本当ですか？ 一体誰です!？」

「それは……」

※さあ皆さんも考えてみてください。正解は、この下に載っています。

↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓

↓
↓
↓
↓
↓
↓

【解決編】

「……じらさないで、早く教えてくださいよ」

せかす刑事の言葉に答えて、私はゆっくりと口を開いた。

「犯人は……レコード屋ですよ」

「ええっ。それはまたどうして？」

「刑事さんはレコードがどちら回りに回転するかご存じですか？」

「最近では聴かないですからなあ。ええと……時計回りですか」

「そうです。そして、時計回りに回転するためには、レコードの溝は左巻きでなければなりません。しかし、レコード屋の店員と称する男の言葉は逆巻きになっている。本当の店員だったら間違えるはずがありません」

「おお！」

「おそらくレコード屋の主人も共犯なのでしょう。さて……」 ゆっくりと席を立った私は、溜息をつきながら捜査室を出た。

「私の役目も終わりだ。帰るとするか……。しかし、まったく最近の若者の言葉の乱れときたら……日本の将来を考えただけで気が沈んでくるよ……」